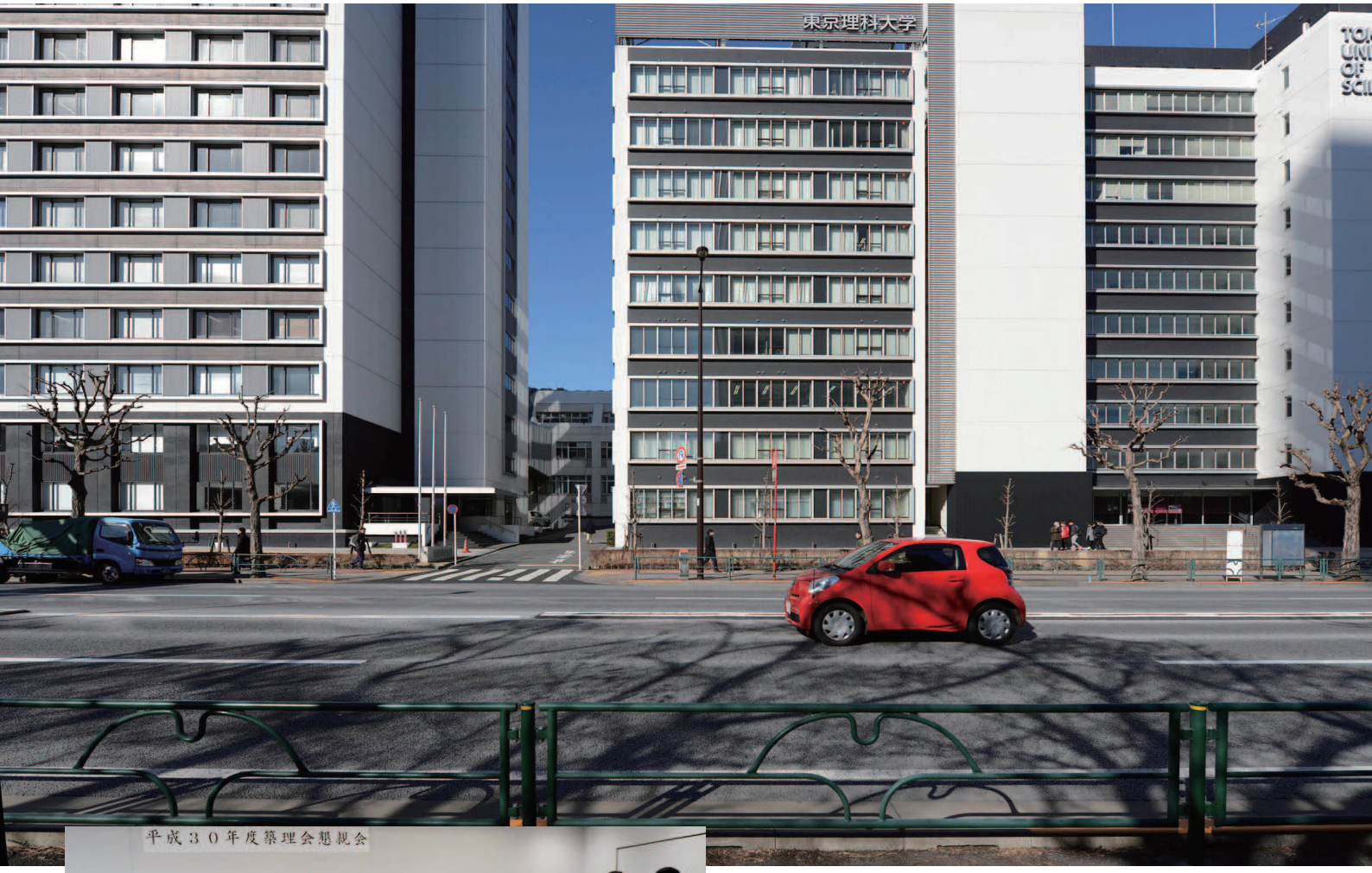
築理会 会報

2018 Autumn vol.62
東京理科大学工学部建築学科校友会



現在の神楽坂キャンパス

建築学科の先生方（平成30年度築理会懇親会）

“神楽坂で逢いましょう”

ホームカミングデー2018

10月28日　in 神楽坂キャンパス

＊同窓出会いの広場「築理会」　会場:８号館地下

おつまみ・飲物(アルコール)等用意しています。

山名善之氏：フランス芸術文化勲章「シュヴァリエ」叙勲

日本人建築家としては5人目です

詳細は「理窓」(2018,9月号に掲載)

CONTENTS

2P　築理会の運営安定化について
平成30年度築理会総会・講演会・懇親会報告
第11回「長谷工住まいのデザインコンペティション」で最優秀賞受賞
3P　矯正建築（刑務所、少年院等）の動向とデザイン
4P～5P　神楽坂の思い出
6P　築理会賞審査会
7P　訃報：佐々木文夫先生
建築学科新任・退任の先生方
8P　インフォメーション
平成29年度築理会決算報告
2017年度成績・卒業制作最優秀及び築理会賞・他
編集後記

築理会の運営安定化について

運営安定化委員会委員長　**福田 義克**（1968年卒）

築理会の会員の皆様、会の活動に特段のご配慮とご理解を賜り、厚く御礼申し上げます。

平成30年３月に工学部一部建築学科は53期生を、二部建築学科は39期生を社会に送り出しました。卒業生総数（築理会会員）は一・二部合わせ7,900名を超えるまでになりました。

大学の校友会である理窓会では22万人卒業生のネットワーク化の為、グループウェアメール・Facebook・ホームページの拡充を進めておられ、また在学生への支援及び支部活動支援の強化や、大学のめざす「日本の理科大から世界の理科大へ」の実現に向け支援・協力、そして海外理窓会の設立、その他、大学が理窓会に期待する活動に力を注いでおられます。

現在理窓会の関連団体は70団体登録されていますが、築理会はその中でも会員数が多い団体のひとつです。

東京理科大学建築学科の就職率は大変素晴らしく、又、就職した方が、国内は無論の事、海外でも多くの方が活躍されています。

年々知名度の高くなっている東京理科大学を卒業した我々にとっては大変嬉しく思います。

そして早い段階から卒業生と在学生とが接点を持つということは、双方にとって大変有意義であると思います。

現在築理会では、工学部建築学科教職員の方々と相談しながら在学生に対し、次のような支援活動をしております。

① 築理会賞の贈呈
② りぼん（理本）への支援

平成30年度築理会懇親会で「りぼん」を紹介

③ 就職活動への支援

平成29年度「OB･OGと学生との交流会」の様子

④ 築理会女子部会活動で女子学生への支援

今後も在学生への支援を続けてまいりたいと思います。しかし何をするにしても費用はかかりますし、現在の築理会の財政事情は厳しく、支援にも限度があります。

築理会の運営安定化についていろいろと検討していかなければなりません。会員の皆様からの良いお知恵を拝借し、安定した築理会の運営を推進してまいりたいと思いますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。

平成30年度築理会
総会・講演会・懇親会報告

平成30年５月26日（土）、神楽坂校舎１号館17階講堂で平成30年度築理会総会が開催されました。

総会の後、石神氏による講演会「矯正建築（刑務所、少年院等）の動向とデザイン」が開催され、普通には聞くことも見ることもできない矯正施設の設計について、大変興味深いお話を聞くことができました（記事P３）。

講演会の後は場所をPORTA神楽坂６階理窓会倶楽部に移し、恒例の懇親会が開かれました。今回の出席者は55名でした。幹事以外の方が少ないので、来年こそはより多くの卒業生がご出席されることを期待します。

第11回「長谷工住まいのデザインコンペティション」で最優秀賞受賞

前田 佳乃（４年郷田研）、**田中 彩英子**（４年宇野研）
大岡 彩佳（４年郷田研）※
作品タイトル『＋1000歩の回り合い』

左から田中・大岡・前田さん

３人は異なる研究室に所属していましたが、３年次のグループ設計で意気投合、４年次になりり2017年11月の「長谷工コンペ」に参加を決め、卒業研究と卒業制作の傍ら９月から準備を始めました。

メインテーマを「歩く」と設定、高齢化社会に向け、歩くことによる健康促進に考慮し『＋1000歩の回り合い』と題して、集合住宅を拠点にその周囲の空き家を歩く仕掛けとしてつなげ、ひとつの街をつくることを提案しました。

なお、このコンペは学生が対象で、応募総数283点の中からの最優秀賞（第１位、１点）です。

※学年は受賞当時

矯正建築（刑務所、少年院等）の動向とデザイン

石神 一郎（1970年卒）

刑務所建築等を唯一担当する法務省大臣官房施設課

2018年５月26日（土）の築理会総会で刑務所建築の講演を依頼された。法務省収容施設についてプロジェクターを使用して説明した。私は昭和45年４月に法務省に入省し法務大臣官房施設課で57年まで法務省施設のデザインを担当してきた。58年からは法務省施設の予算要求・執行、企画などの行政業務に携わってきた。とにかく、刑務所建築は特殊中の特殊な建物で、刑務所建築を担当しているのは法務省大臣官房施設課が日本で唯一の部署なのである。

法務省施設は、施設数1,776庁、建物延べ面積480万㎡、刑務所・拘置所・少年院・少年鑑別所などの収容施設は296庁、300万㎡、施設整備予算額は毎年250億円から多い年で500億円ぐらいの整備を進めてきた。

日本の近代化とともに監獄（刑務所）建築の改良が進んだ

奈良監獄正門

明治政府の重要な課題の一つに徳川幕府時代に結ばれた不平等条約の改正があった。不平等条約を結んだ欧米諸国は監獄建築の近代化が遅れていることを理由に不平等条約の改正に応じようとしなかった。日本政府は不平等条約の改正を実現するため、近代的な洋風レンガ造の監獄建築の整備に取り組んだ。明治30年代、５大監獄（千葉、長崎、金沢、奈良、鹿児島）の建設に取り組み、不平等条約改正を実現した。鹿児島監獄は近くで採取できるシラス溶岩を活用した日本で唯一の石造監獄である。

現在、表門が保存され、当時の姿をとどめている。監獄の呼び名が刑務所に変わったのは大正11年からで、より人権を重視した呼び名にしたいということから変更された。また、今も赤レンガ造刑務所として現存する奈良刑務所がホテルで再活用されることになったことが話題を呼んでいる。外観が重要文化財に指定され、これからも奈良の歴史的文化財として生き残っていくことは大変意義深いことではないだろうか。

戦後の矯正建築は良好な居住・教育環境、都市環境との調和を重視したデザインで整備されてきた

矯正建築とは刑務所、拘置所、少年院、少年鑑別所などの総称で、現在の矯正施設の被収容者・被収容少年の処遇は改善更生、社会復帰を目指している。施設のデザインはこれを踏まえて、デザインをしている。

福島刑務所庁舎

少年院の被収容少年に対しては特に心の教育を重視した教育を実施しているので教育環境を重視したデザインをしている。都市型刑務所では外部から見える庁舎や外塀をデザインして都市環境との調和に心を砕いた設計に心がけている。また、PFI（民間資金を活用）による刑務所建築整備が話題になった。日本国は世界でもトップレベルの治安のよい国であることは間違いない。国の発展にとって安全で安心な社会の実現は最も重要なことである。このような仕事を通じて社会に貢献できたことを誇りに思っている。

回転貫入鋼管杭 ジー・エクス・パイル
G-ECS PILE®
基礎杭に、新たな価値を創造する。
昭和48年工学部建築学科 代表取締役 三輪 富成
平成 5年工学部建築学科 技術本部長 小林 俊夫
株式会社 三誠 SANSEI INC.
Tel：03-3511-0211 Fax：03-3551-0217 Mail：info@sansei-inc.co.jp
〒104-0033 東京都中央区新川 1-8-8 アクロス新川ビル 9F
北海道営業所／東北営業所／新潟営業所／北陸出張所／北関東営業所／茨城出張所／千葉出張所／神奈川出張所／関西営業所／中四国営業所／九州営業所／沖縄営業所
SANSEI Holdings, Inc.
空気の力で振動を断つ。
エアー防振フロア
(特許第5903316)
株式会社 三誠AIR断震システム
http://www.airdanshin.jp/
究極の振動対策
建物の階層を隔てるコンクリートスラブと床の間に気密空間を設け、空気のクッションを作ります。振動の強弱に応じて空気圧をコントロールし、常に床全体を空気で浮揚させているため、振動が構造躯体に伝わりません。
エアー断震システム 検索

神楽坂　思い出の店、今も残る店

稲垣 雅子（合同会社プラネットギア・1979年卒）

神楽坂との付き合いは理科大入学より更に15年ほど遡る。幼稚園からの親友が毘沙門天の少し下に住んでいて、よく家にも遊びに行ったし縁日にも一緒に行った。入試の帰りも久しぶりに寄って、暗くなるまで神楽坂の通りを眺めながらたわいない話をした。

何軒か新しい喫茶店ができたりはしたけれど、在学当時の神楽坂は、子供の頃から見慣れた昔ながらの佇まいのまま、それほど変わっていなかったように思う。昼なら学生でも行かれる料亭もあった。友人の家のような木造の個人商店も多かった。改札を抜けて交差点へ向かうと「佳作座」の上映中作品の大きな看板が目に入る。「カサブランカ」の時は通路まで立ち見でいっぱいだった。元キャバレーのままに、バンドステージやボックスソファー席のある薄暗い巨大な喫茶店「軽い心」、夜になると地下のパブ「ハッピージャック」が開く。「巴有吾有（ぱうわう）」のカウンターで、サイフォンで淹れるのを見ながら飲むコーヒーも美味しかった。今はそれらの店は跡形もなく、友人の洋品店も隣のお煎餅屋さんもどこにあったのかさえ、もはや定かではない。翁庵も志満金もビルに建て替わった。

そんな中、坂上の居酒屋「駒忠」は今も当時のまま変わらずにある。昨年の２月、入学も卒業も年度はバラバラだけれど、在学中どこかで一緒になったことのある面々が集まった。入口の戸が開くたびに懐かしい顔が次々に現れる。茨城や新潟、関西からもみな、「駒忠」に来るために神楽坂へやってきたのだ。フランチャイズだけれど家族経営のこの店で、当時は見習いだった同年代の店主と、学生時代に常連だった彼らの数十年ぶりの再会に一気に時が遡る。

今度はいつ会えるだろう、これから何度ここで会うことができるのだろう。あの頃の神楽坂の片鱗の残るこの店で。

オーケストラの仲間たち

駒忠にて

オーナーさんとのご縁があって、この春から渋谷にある築60年を超える木造料亭の顧問をつとめている。道玄坂上、渋谷駅から徒歩数分のところに、このような建物が残っていることは奇跡といってもよい。今は営業していないこの料亭の、建物の維持管理を含めた今後の展開を、チームをつくって考え取り組んでいく。オリンピックを控えて、また大きく変わっていくであろうこの街で、かつての渋谷文化を代表するようなこの建物の存続にかかわり、それが未来に対して持つ意義を提示していかれるようなこの仕事に、誇りを持って誠心誠意取り組んでいきたいと考えている。

郷愁の神楽坂…現在（いま）を想う

田子 省三（株式会社大林組・1988年卒）

《入学当時は講義内容がちんぷんかんぷんで…》

入学当初、外堀沿いに美しく咲き乱れる桜並木や、神楽坂通りのにぎやかな景観とは裏腹に、自分の周囲は名門校の出身者ばかりで圧倒されてしまいました。都立高校から何とか理科大にもぐりこんだ私には、講義の内容が難しすぎて、ちんぷんかんぷんでした。とくに、平川先生の微積分ε-δ、森脇先生の構造力学、幸田先生の環境工学等々は全くのお手上げ状態でした。周囲に不安を漏らすと、「大学の講義はこんなもの。気にするな」と励ましてもらいました。

幸い多くの友人に恵まれ、勉強もアシストしてもらい、改めて神楽坂の生活がスタートした次第です。設計課題や定期試験の打ち上げは、もちろん神楽坂。終電まで皆で飲み続けたことが懐かしい思い出です。当時は古風な喫茶店や安い居酒屋、定食屋、麻雀荘等々が軒を連ねており、講義の間の時間つぶしには事欠きませんでした。

余談ですが、妻と付き合い始めたころ、甘党の彼女を「紀の善」につれて行きましたし、鰻の「志満金」は今も懇親会等で利用しています。神楽坂はずいぶん変わったと聞きますが、「紀の善」「志満金」「翁」「五十番総本店」「神楽坂飯店」など今も元気に営業していることは嬉しいですね。

《現在はゼネコンの営業をしています…》

４年時の研究室は、構造系の松崎研究室に入室しました。実学に基づいた松崎先生の熱心な指導を、最後の一年間受けさせていただき、理科大での集大成としたいと考えたからです。その後は大林組に就職し、現場、見積部門を経て営業部門に配属となり、18年目になります。

営業部では顧客からの情報収集、PJの社内への展開と調整、価格交渉、現場立ち上げ、竣工後のメンテナンス対応と多岐にわたり、多忙な毎日ですがとてもやりがいがあります。

ただ、折からの人手・資材不足から建設コストが高騰し、お客様に以前のような魅力ある成果品を届けるのが難しい状況がつらいところです。AIやIoT技術を駆使して、経済合理性と価値の高い建築空間を提供したいと願っています。

《私生活では、寺社仏閣や古城めぐりを…》

長男は幼年期から生き物に興味をもっていた為、理科大基礎工学部（生物工学）に進学し、卒業後は専門性を活かして製薬会社に勤務しています。

音楽が大好きだった長女は、音大（声楽）に進学し、今では福祉関係の仕事に従事しています。

私たち夫婦は、３年前から少しずつ全国の寺社仏閣や城などの聖地巡礼の旅に行っています。先人たちの高尚な技術や文化、産地の食材に触れることで、これまでの人生を振り返り、感謝と反省を繰り返しながら、人生をどう過ごすのか妻とともに自問自答の旅を続けています。

長男と１号館前にて

神楽坂も人生も逆転式一方通行

鈴木 敦子（エープラス株式会社・1997年卒）

私は中学校から有楽町線で通学していて、桜の季節などはよく飯田橋駅で途中下車し、そのままお堀にそってのんびり２駅歩いて登校しました。帰りは寄り道して、駅ビルの「ラムラ」で「31アイスクリーム」や神楽坂入り口の「紀の善」で甘味を食すなど、飯田橋には長いことお世話になっていました。しかし、大学に入ってからは学校の仲間と神楽坂で遊ぶことはほとんどなく、神楽坂での思い出って何だろうと思い返したときに、記事のネタになりそうな面白いことが思い浮かびません。ただ、学生時代は車の運転にハマっていて、神楽坂も数えきれないほど通りました。そういえば、一方通行で午前と午後はその方向が変わるというのが、私にとっての神楽坂での一番印象的な思い出です。

神楽坂を含めた早稲田通りは、通称「角栄通り」とも言われます。田中角栄の目白台の自邸から永田町までの行き帰りに対し、便宜を図ったという都市伝説があるのも有名な話です。確かに両方向通行にするには道幅が狭く、午前と午後の交通量を鑑みると正しい判断なのでしょうが、建築をかじるものとしては、土建業のドンであった「角栄」のしわざであるかもしれないというネタが好きでした。実際、「角栄通り」を利用することで、ほとんど道も曲がることなく永田町への行き帰りができてしまいます。目白台の自邸からたった３回曲がるだけで、新潟の実家についてしまうという都市伝説も、これは本当のようです。

一方通行の話に戻しますが、その方向は昼の12時と夜の12時に切り替わります。その切り替わり直前に入ってきた車や路駐していた車が、12時になると容赦なく反対側から車が入ってきてしまう状況の中で、オロオロしているんです。私はそのようすを何度も見て、おもしろく感じていました。今は昼の入れ替わり時間には、１時間歩行者天国になっているのですが、昔もそうだったでしょうか？すでに卒業して20年以上経っているので記憶が定かでありませんが、きっと、急な一方通行逆転時のオロオロ対策でしょう。

さて…私自身についてはというと、大学を出て20数年のうちに、２回も結婚を失敗してしまいました。結婚のたびに仕事を辞めてしまい、特に２回目の社会復帰にはたいへん苦労しました。仕事を辞めてしまったことについては、とても後悔しています。それでも周囲に助けられながら今があります。大学の仲間や先輩たちの応援を受けながら、大好きな建設業に携わる人々が充実して働くことができるよう、環境づくりに尽力したいと、起業したのが昨年１月です。まだまだ紆余曲折の毎日、軌道に乗るのも先ですが、引き続き信念をもって頑張ります。理科大OGの底力！

神楽坂とあんみつの思い出

渡邊 杏奈（飛騨五木株式会社・2011年卒）

私が初めて神楽坂を訪れたのは、大学入学式よりずっと前の小学４年生の夏休みでした。母と祖母と３人で、神楽坂下の交差点近くにある「紀の善」へ行き、冷たいあんみつを食べたことを覚えています。実は、私の父、母、弟も、理科大出身という“理科大一家”なのですが、私が理科大のキャンパスを訪れたのは、その日が初めてだったと思います。母は理科大生の頃から、「紀の善」のあんみつが大好物だったらしく、その日も「どうしても食べたい！」と言っていました。あんみつを食べながら、大学時代の思い出を話す母はとても楽しそうで、「母も大学生だったんだな」と妙な気分になりました。神楽坂キャンパスを見に行くと、真夏なのに校舎の入口はなんだか薄暗く、ひんやりしていて、おまけに外壁に複数のパイプのようなものが無造作に伝っていて、小学生の私には不気味に思えて、とても印象に残りました。

それから時が経ち、高校生になると、度々、両親から「理科大なら英語ができなくても数学さえできれば受かる」とか「大学でみっちり勉強させられるから、他の大学よりもコスパが良い」とか、嘘か真かもわからない口車に乗せられて、まんまと理科大生になることになりました。

しかし、私が入学した時、神楽坂キャンパスは建て替え中で、仮校舎の九段下キャンパスに在籍することになりました。結局、大学院含め６年間、九段下に通うことになるのですが、ちょうど卒業した後に金町キャンパスができ、神楽坂も金町も味わえない、宙ぶらりんな学年でした。それでも、在籍中、教授やOBの方達と食事に行くときは、神楽坂集合であることが多く、母と同様に理科大生にとっては、落ち着く街なのかなと思っていました。

卒業してからは、研究室のOB会で「PORTA神楽坂」に行ったり、会社の飲み会で神楽坂に行くようになりました。大学生の頃はわからなかった日本酒やワインの美味しさに目覚めたのもこの頃で、隠れ家的なお店だったり、小洒落たバーにも行けるようになり、神楽坂の楽しみ方が広がりました。

残念ながら（？）私の夫は、理科大出身ではありませんが、もし私に子供ができて、理系の大学に行きたいと言ってくれれば、まずは「紀の善」に連れていって、あんみつを食べさせてあげようと思います。そのあと、九段下にあるパスタ屋「ぴえもん」（九段下に通っていた女子学生なら必ず通っていたであろう名店です。未だに同級生と行きます。）へ連れていき、「明太子パスタにウニをトッピング」という最強メニューを伝授し、如何に楽しい大学時代を過ごしたか、教えてあげたいと思います。

1級建築士試験 No.1 全国 ストレート合格者占有率 合格者占有率
1級建築士を1年で取得するなら総合資格学院
平成29年度 1級建築士 設計製図試験
全国 ストレート合格者占有率 70.7%
全国ストレート合格者 1,564名中 当学院当年度受講生 1,105名
<平成29年12月21日現在>
平成30年度 目標 全国ストレート合格者全員を総合資格学院現役受講生で！ 100%
東京理科大学 平成29年度 卒業生合格者108名中当学院当年度受講生70名 合格者占有率 64.8%
<平成29年12月21日現在>
※全国合格者数および卒業学校別合格者数は、(公財)建築技術教育普及センター発表に基づきます。
※総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。
学院長:岸 隆司
総合資格学院
全国約90拠点
柏校 TEL.04-7168-9111
柏市中央町1-1 柏セントラルプラザ 業務棟 5F
総合資格 検索
Facebook「総合資格 fb」で検索！
スクールサイト www.shikaku.co.jp
コーポレートサイト www.sogoshikaku.co.jp
法定講習 実施中
一級・二級・木造建築士定期講習 / 管理建築士講習 / 第一種電気工事士定期講習 / 監理技術者講習 / 宅建登録講習 / 宅建登録実務講習
開講講座 1級・2級 建築士/建築施工管理/土木施工管理/管工事施工管理/構造・設備設計1級建築士/宅建士/インテリアコーディネーター/建築設備士/賃貸不動産経営管理士

一部建築学科　築理会賞審査会 報告

広谷 純弘
（株式会社アーキヴィジョン広谷スタジオ・1980年卒）

さる２月10日に、一部建築学科卒業制作の築理会賞・審査会が葛飾キャンパスで行われた。審査員は、常盤純代さん（日本設計･1995年卒）、虎尾亮太さん（株式会社虎尾・謝 建築設計･2005年卒）と私の３名。審査の対象は、あらかじめ講評会に選ばれた12名の作品である。一次審査で各審査員が５作品を選んだところ、全員が評価した作品が３作品あった。票が入った他の５作品についても意見を交換したが公開審査の対象にはならず、全票が入った３作品に絞って公開審査をすることになった。

選ばれた作品は、大岡彩佳さんの「クルマが拓く、径のえき」、亀滝侑里さんの「里の長城」、西島カルドソ愛パメラさんの「THE SIGNAL CENTER」である。

３つ共に現代的なテーマを持ち、かつ個性的な作品である。公開審査における活発な議論の結果、西島さんの作品が築理会賞に選ばれた。

惜しくも築理会賞を逃した大岡さんの作品は、クルマを単なる交通手段から解放して建築と繋がるシステムとした、新しいコミュニケーションの施設の提案である。現れた形態は楽しげなコミュニティーのイメージを伝え、すぐ近くで起りそうな日常性を感じさせる作品であった。

亀滝さんの作品は、傾斜地の街をそこにある記憶のような形態を繋ぎ、新たな要素を付加することで、便利さと不便さの両方の魅力が混在した詩的な街づくりの提案である。共に彼女達の価値観や瑞々しい感性が時代の空気感をまとい、かつ説得力を持った作品であった。

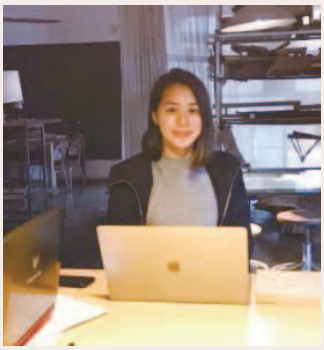
対して西島さんの作品は、彼女の故郷パラグアイの格差社会における貧困問題がテーマで、既存のコミュニティーセンターを中心に施設整備を行い、新たな交流によって意識や価値観を変えていく拠点づくりである。そこには建築的な仕掛けが様々に用意されており、自らが選んだテーマの大きさと建築の表現との戦いが感じられた。その力強さが審査の結果を導いたと思う。

２年生から３人を見ているが、将来に大きな期待を感じる学生達である。今後の活躍を大いに期待しています。

講評の様子

卒業制作を通して

西島カルドソ 愛パメラ
（2018年卒）



４年間の集大成となる卒業制作において、自分が建築を通して何がしたいのかとても悩み、精一杯自分と向き合いました。私の母国である南米パラグアイの対象としたエリアでなにが必要とされているのか、どのような変化が求められているのかから考え始めました。

今回焦点を置いた、格差社会、情報化社会における問題点を少しずつ建築スケールに落とし込み、自分なりに具体的な形で表していきました。貧困問題はとても複雑で建築ひとつでは解決できないと思います。小さなスケールであっても建築でこの環境に少しでも変化を起こしたい。その強い思いが最後までやり遂げるための原動力になりました。そこで、貧困解決を妨げている要因の一つである偏見に焦点を置き、既存のコミュニティーセンターで、人々の見方や流れに変化を与え、少しでも人々が同じ目線で関われる場所を設計の軸としました。

卒業制作を通して行なった自分なりの解釈がどう捉えられるのか全く想像出来ず、最後まで不安を抱えていました。そのような中、賞をいただくことができ、大変光栄に思います。考えが少しでも認められたこと、なにより自分の思いを建築ツールを通して相手に思い残すことなく伝えられたことに喜びを感じました。また、良い評価だけでなく、アドバイスがいただけたのは大変有難く、これからの設計につなげるため勉強になりました。今まで常に自信が足りない自分がいたので、これから建築と関わっていくための大きな励みになりました。

自らテーマを設定する卒業制作は、ひとりひとりの考えていることが明確に表現されるので今まで一緒に学んできた同級生たちが考えていること、やりたいことを知ることができ、とても楽しかったです。建築を通してそれぞれの個性とコミュニケーションをとっているかのようで一生忘れられない経験になったと思います。

大学を卒業後は、帰国し、現在はハビエル・コルバランというパラグアイ人建築家のもとで実務に関わらせてもらっています。日本とは社会状況が大きく異なる母国において、建築はもちろん、社会自体の理解を得る必要性を感じ、大学院に進学する前に実務経験を積もうと考えました。現在は、集合住宅や戸建て住宅の敷地計画など、様々なプロジェクトに関わらせてもらい、日々新しいことを学んでいます。これを通して、新たな知識、発見をし、改めて大学院で何にフォーカスしていくのかを考えたいです。これからも卒業制作での経験を糧に、周辺環境を変えるような自分なりの建築をいつか実現できるよう頑張りたいです。

訃報：佐々木文夫先生　～数学と建築との架け橋をめざして～

元教授佐々木文夫先生が６月12日お亡くなりになりました。享年65才。謹んでお悔やみ申しあげます。

【工学部建築学科50年の記録】（2013）「数学と建築との架け橋をめざして」から抜粋。

『佐々木文夫が工学部建築学科の教授として着任したのは、平成16年（2004年）４月であり、51歳の時です。それまでは、鹿島建設に昭和52年に入社以来、27年間システム開発部門に所属し主に地震動の解析、地盤と建物の動的相互作用解析、ウェーブレット解析の地震動への応用などの研究に従事していました。・・・』

『佐々木研究室の学部学生数は８～10名ほどであるが、研究室が狭かったこと、また研究室を主宰する佐々木が数学の専門家研究室に配属されると数学を中心に研究させられると学生が感じたためか、第一期生は２名のみであり、第二期生も６名であった。一期生の正月俊行君、田村友君には研究室の開設準備からネットの環境などの様々な作業も手伝ってもらった。正月君は東工大の大学院に、田村君は企業に勤めたので、第二期生の６人も一人で指導することになり・・・』

佐々木文夫先生をしのんで

正月 俊行（株式会社構造計画研究所・2005年卒）

まず、佐々木先生のご逝去を悼み、謹んでお悔やみ申し上げます。先生が鹿島建設から理科大工学部建築学科に移られた年、私は第一期生として佐々木研究室に入ることになり、地震波の分析に関する研究テーマを与えられました。当時は、先生と学部四年の学生の私、田村 友氏の計３名しかいませんでしたので、研究に取り組む上での心構えから地震波の解析理論やプログラムの作り方、論文の書き方まで、先生直々にみっちりとご指導いただきました。基本的に穏やかな口調で、随所にユーモアや興味深い逸話を交えつつ、難しい内容を噛み砕いて説明していただけたので、理解しやすかったですし、研究や解析の面白さも教えていただきました。

この時教えていただいたことは社会人になった今でも役に立っております。最初に指導していただけたのが佐々木先生で本当に幸運でした。次の年、私は東工大の大学院に進学しましたが、その研究室を紹介して下さったのは佐々木先生でした。また、学部時代の研究テーマで国際学会に参加する機会をいただいたこともあります。

先生にはどれだけ感謝してもしきれません。先生とお話しできないと思うと本当に残念でなりません。どうぞ安らかにお眠りにつかれますよう心よりお祈り申し上げます。

建築学科新任の先生方

山川 誠 教授
京都大学大学院修了
元東京電機大学教授
建築構造学
博士（工学）
佐々木先生の後任として着任されました。

（先生よりのコメント）

2018年４月より、工学部建築学科教授に着任しました。専門は建築構造で、応用力学、最適設計など建築と数理が交わる分野での研究を主にしてきました。着任してからまだ日が浅いのですが、熱心で意欲的な学生が多いという印象を持ちました。学科では、同年３月に退職された佐々木文夫先生の後任として、建築数理部門を担当しています。佐々木文夫先生には、非常勤講師として本学の教育に関わったときにたいへんお世話になりました。このたびの突然の先生の訃報を聞き、まだ信じられない気持ちでいます。この場を借りて、哀悼の意を表します。研究、教育を通じて学科に貢献することが、後任としての先生への恩返しと思います。今後ともよろしくお願いします。

森田 佑輔　助教（高橋研）
2008東京工業大学大学院 総合理工学研究科人間環境システム専攻修士課程修了。その後、設計事務所やゼネコンにて構造設計や工事監理に従事。2017構造設計一級建築士取得。

森 健士郎　助教（伊藤 拓海研）
2018東京理科大学大学院工学研究科建築学専攻博士後期課程修了。博士（工学）。鋼構造学・耐震工学専門。伊藤（拓）研究室にて鉄骨建物の修復性について研究中。

永田 賢一郎　補手（栢木研）
2011横浜国立大学大学院/建築都市スクールY-GSA修了。2013～2017 IVolli architecture主宰。

大村 聡一朗　補手（坂牛研）
2014 東京理科大学工学部卒業。2015ベルギーの事務所aDVVT勤務。2017同大学院工学研究科修士課程修了。現在、同大学院博士後期課程。

2018年３月退任された先生方

佐々木文夫教授　定年
崔彰訓助教、佐河雄介補手、稲山貴則補手、高桑敦子補手

平成29年度　築理会決算報告

収入の部

部門	摘要	金額	
繰越金			2,021,163
築理会会費	3500円×219名	766,500	
	30000円×27名	810,000	
	2000円×15名	30,000	
	会費合計	1,606,500	
広告収入	会報春・秋・名簿	1,658,880	
寄付		145,000	
その他	銀行利息	2	
余剰金	新年会・総会	43,303	
繰越金	予算余剰金他	168,858	
今年度収入総計		3,622,543	
総収入			5,643,706

支出の部

部門	摘要	金額	
会報	春号	1,115,242	
	秋号	312,174	
名簿	印刷・発送	978,048	
ホームページ維持費		73,224	
事務費		253,606	
運営費(会場費)		16,000	
築理会賞		40,626	
会報編集費		40,000	
りぼん支援		100,000	
今年度支出総計		2,928,920	
来年度繰越金			2,714,786
総支出			5,643,706

ホームカミングデー 2018 “神楽坂で逢いましょう”

◆会場：８号館地下　同窓出会いの広場「築理会」
おつまみ・飲物（アルコール）等用意しています。
今年のホームカミングデーは、久しぶりに神楽坂開催です。
神楽坂周辺も以前とはかなり変わっています。是非、お立ち寄りください。お待ちしています。

「OBOGと学生との交流懇親会」

◆日時・場所：11/24（土）in 葛飾キャンパス
６人のパネラーと学生との交流会（司会：安達 功氏）です。
交流会の後、学生・教員・築理会会員による懇親会を開催します。皆様方の参加をお待ちしています。

平成30年度　会費納入のお願い

現在、平成30年度の会費納入をお願いしております。 同封の振込用紙にてお振り込み下さい。今後のさらなる築理会発展のため、多くの方のご協力をお願いします。
昨秋平成29年度版会員名簿を発行しました。在庫のゆるす限り、会費を納入された名簿未配布の方にお送り致します。

年会費　　3,500 円
加入者名　築理会
口座番号　郵便局　00110 － 5 － 171952

懇親ゴルフ会（ちくご会）会員募集

現在ちくご会は第30回を迎えました。15年前に開始した築理会の終身会員を対象にしたゴルフ会ですが、メンバーの高齢化で20名近くいたゴルフ仲間は私（森本）と石神さんだけで、後のメンバーは体調が優れなかったり、仕事の定年を迎え地方の地元に引っ込んだりして入れ替わっています。15年の歴史の重みを感じます。現在は新会員を迎え12名３組で、取手駅の近くの利根パークで懇親を深めています。次回は11月28日（水）です。今回８名の方を募集いたします。
榎本（４期）幹事の携帯またはメールアドレスにご連絡下さい。
携帯090-2660-2683　メールhide.eno@jcom.zaq.ne.jp

平成30年４月４日に開催された懇親ゴルフ会　利根パークゴルフ場にて。

2017年度成績・卒業制作 最優秀及び築理会賞

一部　成 績 最 優 秀：大岡 彩佳
卒業制作最優秀：大岡 彩佳
[築理会賞]
成績：一色 千暁、卒業制作：西島カルドソ パメラ愛
二部　成 績 最 優 秀：中村 園香
卒業設計最優秀：中村 園香
[築理会賞]
成績：有馬 由里子、卒業設計：横山 隼也

築理会・女子部会のホームページをご覧ください

◆築理会－東京理科大学工学部建築学科校友会HP
http://www.chikurikai.org/（「築理会」で検索）
築理会会報のバックナンバー、最新の築理会会則、イベントの詳細情報などがご覧になれます。
◆築理会女子部会HP（「築理会女子部会」で検索）

＜2018春号の訂正＞
P2.「築理会名簿と個人情報」下から12行目を下記に訂正
・築理会名簿の場合はこのオプトアウト方式を採用し、名簿を作成しています。

編 集 長：近藤 剛啓
編集委員：大岩 昭之、野田 正治、飯山 道久、荒井 眞一郎、浦山 千明、森 清、伊藤 学、安達 功、高橋 潤子、三浦 博範、栢木 まどか

編集後記：（近藤 剛啓）
築理会会報は、「同窓生の近況を紹介すること、同窓の輪を広げること」をテーマとしています。今回も大勢の方にご多忙の中、連絡や執筆にご協力いただきました。皆様に感謝申し上げます。